

会 議 録

会議の名称	行田市立図書館協議会	
開催日時	平成21年12月22日(火) 開会：14時00分 閉会：14時50分	
開催場所	図書館 ミーティングルーム	
出席者(委員)氏名	保泉委員長、長谷川副委員長、松井委員、小川委員、島田委員 大澤委員、東委員、小林委員	
欠席者(委員)氏名	木島委員、阿久津委員	
事務局	平井図書館長、吉田	
会議内容	(1) 「行田市子ども読書活動推進計画」の推進状況について (2) 先進地視察について (3) その他	
会議資料	(資料名・概要等) 行田市立図書館協議会会議資料 「行田市子ども読書活動推進計画」の概要	
その他必要事項		
会議録の定	確定年月日	主宰者記名押印
	平成22年 1月 7日	保泉欣嗣 ㊟

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
事 務 局  委 員 長  事 務 局	<p>市民憲章唱和</p> <p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ 行田市立図書館協議会 保泉委員長</p> <p>3 議 事</p> <p>（１） 「行田市子ども読書活動推進計画」の推進状況について</p> <p>資料の１ページの読売新聞の写しであるが、これは文部科学省が行っている３年に１度の社会教育調査の結果で、２００７年度に図書館を利用した小学生一人当たりが借りた本の数が、過去最高の３５．９冊であったというものである。この数字は前回の２００４年度の結果より２．９冊増えている。</p> <p>貸出冊数が増えた要因として、学校への司書教諭の配置による読書活動の支援の強化や、小学校・中学校で取り組まれている朝読書などによる読書機会の増加が挙げられている。</p> <p>この調査の本市の結果をみると、２００７年度では４０．３冊となっていて、全国平均より４．４冊多いものの前回調査の２００４年度より０．４冊減っている。２００７年度は「行田市子ども読書活動推進計画」の開始年度に当たるため少し残念な結果となった。</p> <p>減った原因として、移動図書館での貸出冊数が前年度の１８年度と比較して３３００冊ほど減少していることが挙げられる。移動図書館の運行回数は前年とほぼ同じであることから、たまたま年間を通して貸出冊数が減少したものと思われる。</p> <p>また、映像システム機器の入れ替えにより来客数の多い土日に臨時休館したことも減った原因の一つに挙げられる。土日では１日に３千冊程度の貸出があることから２日で６千冊その内児童書が４割程度を占めるとして２５００冊位はこの臨時休館が原因で減ったものと考えられる。</p> <p>参考に、２００８年度の行田市の数字を見てみると、４２冊になっており前年度より１．７冊増えている。</p>

本市においても小中学校の3分の2にあたる16校に司書教諭が配置されていて、全ての小学校・中学校で朝読書などの読書活動が取り組まれていることから、子どもたちの更なる図書館利用に期待しているところである。

資料の2ページの表から、子供たちを含め全体的な図書資料の貸出冊数の推移を見てみると、この新しい図書館が開館してから着実に貸出冊数は増えている。平成19年度は映像システム機器の入れ替えにより土日に臨時休館したことから、この年度だけ全ての項目で前年を下回ったが、平成20年度には回復している。

また、この図書館が開館した平成15年度と直近の平成20年度の貸出冊数を比較した数値を見てみると、移動図書館以外の貸出冊数は開館当時と比べて大幅に増えている。これは、この新しい図書館の開館が市民の読書活動の推進に大きく影響したことがうかがえる。

次に、「行田市子ども読書活動推進計画」の概要のそれぞれの施策の推進状況を検証する。はじめに1番目の家庭での取り組みであるが、昨年実施したアンケート調査によると、約8割の家庭で子どもさんが0歳の時から絵本を読んであげていると回答がされたので、ブックスタートパックなども有効に活用されているものと思われる。

資料の4ページの表からも、おはなし会の参加者も順調に増えている。また、ブックスタート事業も、4ヶ月検診に訪れた子どもさんには漏れなく絵本を配布している。

2番目の幼稚園・保育園等での取り組みであるが、全ての園で日常的に読み聞かせを行っているほか、園児が自由に絵本を読める読書コーナーを設置したり、貸出図書を用意するなど工夫をされ、読書環境の向上に取り組んでいただいている。

3番目の小学校・中学校での取り組みであるが、資料の3ページの表に学校図書館図書標準に対する達成率があるが、平成17年度と比較して平成20年度は小学校・中学校それぞれ大幅に伸

びている。

また、創意ある読書活動の推進として、朝読書を発展させた読書マラソンなどそれぞれの学校で読書意欲を湧き立たせる読書活動を展開している。

4番目の障害のある子どもへの取り組みであるが、特別支援学校では定期的に図書館を利用しており、子供たちがそれぞれ読みたい本を選び、自ら貸出手続きを行っている。先日開催したお話会には、特別支援学校の子供たちも参加した。

5番目の図書館における取り組みであるが、資料の3ページの蔵書数の推移を見ると、児童書は平均して毎年5千冊ほど増えている。また、蔵書数の比較で見ると、平成15年度と比較して65%ほど増えている。このように、図書館の一番大きな役割である図書資料の整備・充実については着実に進んでいる。

また、学校との連携であるが、移動図書館の運行をはじめ、職場体験学習などの受け入れや調べもの学習の支援なども日常的に行っている。

資料の4ページになるが、子どもたちの読書活動を支援するための、おはなし会の開催や読み聞かせ講習会の開催、ブックスタート事業の実施、また、「おじいちゃんおばあちゃんの玉てばこ」と題した世代間交流事業の実施など、順調に進んでいる。

6番目の地域社会との連携であるが、地域公民館にご協力をいただき、夏休み期間を利用した緑陰図書館の実施や、行田ロータリークラブから児童書をご寄贈いただくなど、あらゆる機会を活用して、子どもたちの読書活動の推進のために努めている。

最後に、今月開催された12月定例会市議会の一般質問の中で「子どもの読書活動の推進」に関する質問があったので、その概要について資料の5ページを基に報告する。

まず、質問の要旨であるが、1点目はブックスタート事業に次ぐセカンドブック事業の取り組みが必要だと思うが市の考えはどうか、というものである。セカンドブック事業については、表の

<p>委員 事務局</p>	<p>下に概要を載せてあるが、ブックスタート事業の次のステップとして、小学校入学時等に本をプレゼントするという事業で、長野県の茅野市、小諸市、諏訪市、駒ヶ根市、箕輪町、高森町、山梨県の山梨市、中央市、富士吉田市、福岡県の水巻町などで先進的に取り組まれている。</p> <p>この質問に対する市の考えは、この事業に取り組んでいる自治体が全国的にも少ないことから、先進自治体の取り組みやその効果などを調査し検討したいとお答えした。</p> <p>2点目は家庭内のコミュニケーションを深めるために、家族みんなで読書に取り組む「家読(うちどく)」事業の取り組みが必要だと思うが市の考えはどうか、というものである。家読事業についても概要を載せてあるが、家庭内で「ノーテレビ」「ノーゲーム」と合わせて「家読デー」を設定し家族で同じ本を読んだり本の感想を家族で話し合ったりする取り組みで、読書を通じて家族内のコミュニケーションを深めることを目的としており、青森県の板柳町、岩手県の雫石町、茨城県の大子町、愛知県的美浜町、岐阜県の可児市、高知県の須崎市、佐賀県の伊万里市などで先進的に取り組まれている。</p> <p>この質問に対する市の考えは、市内の中学校の中には学校独自の取り組みとして同様の事業を進めているところもあることから、「家読」事業を家庭での読書活動の推進のための一つの方策として啓発していきたいとお答えした。</p> <p>以上、子どもたちの読書活動の現状、計画の推進状況、関連する議会対応の報告等を説明したが、これらのことについて、意見や質問があればお伺いしたい。</p> <p>学校図書館図書標準に対する達成率についての説明があったが、これは何を基準にしているのか。</p> <p>学校図書館図書標準は、公立の義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準冊数のことで、それぞれの学校の学級数によって定められていることから、その標準冊数を基準に達成率を</p>
-------------------	---

<p>委 員</p>	<p>算出している。</p> <p>この「行田市子ども読書活動推進計画」が策定されてもうじき3年になるが、計画策定にかかわった市の職員による進行管理は行ったのか。</p>
<p>事 務 局 委 員</p>	<p>現在のところ行っていないが、今後、実施に向けて検討する。</p> <p>市内の学校の中に家読事業と同様の事業をやっているところがあると説明があったが、何校ぐらい実施しているのか。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>事務局で把握しているのは2校である。</p> <p>(以上、「行田市子ども読書活動推進計画」の推進状況についての検証とする。)</p>
<p>事 務 局</p>	<p>(2) 先進地視察について</p> <p>資料の6ページの視察研修の経過であるが、当協議会では、効率的な図書館運営をはじめ、先進的な施設や設備等、本市の図書館運営を向上させるために多くの図書館を視察している。</p> <p>平成15年度にこの新しい図書館が建設されるまでは、先進的な施設を中心に、平成16年度以降は、斬新的な図書館運営や効率的な図書館運営の先進図書館を視察しており、昨年度は、窓口業務をはじめとする図書館業務の民間委託などを視察し、効率的な図書館運営について研究したところである。</p> <p>本年度についても、視察を実施する方向で検討しているが、県内外に特に目新しいものが見つからず、その選定に苦慮している。本年度から指定管理者を導入した伊奈町や窓口業務の部分委託を行っている上尾市なども候補として挙がり、担当職員で下見を行ったが、図書館の規模が当図書館より小さいためあまり参考にはならず候補から外すこととした。その後も、県内の図書館の情報を収集し検討したが、来年度になれば、新たに指定管理者を導入したり、新たな図書館を設置する自治体もあるようである。</p> <p>そこで、今年度は適当な候補地が無いことから視察は中止し、今後、当図書館にとって本当に参考になり、将来的に必要であると思われるものを見極め、実施したいと考えるが委員の意見を伺</p>

<p>事務局</p> <p>副委員長</p>	<p>いたい。</p> <p>(特に意見もなく、全委員が承諾した。)</p> <p>(3) その他</p> <p>今年で3回目となるが、東京電力株式会社より視覚障害者用図書が寄贈された。これは、同社が地域福祉協力活動の一環として行っているもので、今回は点字図書、テープ図書及び大活字図書を32点いただいた。</p> <p>また、ロータリークラブについても、今年度も児童書を寄付していただけると連絡があり、現在準備をすすめているとのことである。以上報告とする。</p> <p>4 閉会のあいさつ 長谷川副委員長</p> <p>以上で行田市立図書館協議会を閉会とする。</p>
------------------------	--